



↑福井新聞(12月17日発行)の記事より。

3年3組 工業化学科 35人の快挙 県内初

全類試験に全員合格

国家資格である危険物取扱者乙種試験で、本校の工業化学科三年生全員が、全類(16類)合格を果たした。学科の全員が突破するのは、県内初で、全国でも学科全員が合格するのは稀なことである。年三回と、試験回数が限られている中で、土日も学校に通い筆記試験の勉強を行っ

今年も進路速報

求人数が減少している中、本校は就職内定率100%を達成した。北陸電力の六名をはじめ、九十九人全員が早々と内定している。進学でも、国立大学の福井大学に四名が合格し、既に三十七名の進路が決まっている。



↑たけふ菊人形会場で子供たちを乗せる武工製の電車

完成したミニ電車は、今年十月二日から十一月七日の三十七日間、越前市のたけふ菊人形にて運行された。車体の材料は主に木で出来ていて、レールは鉄製だ。製作費は四十五万円で、菊人形側が負担した。一回百円で乗ることができ、小さな子どもたちが楽しめ



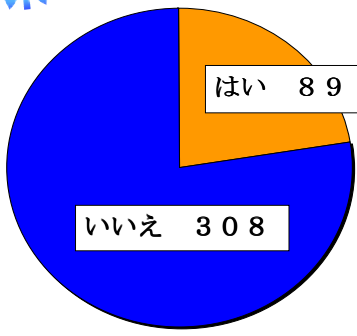
↑担当の坪田俊幸先生

担当の坪田俊幸先生は作品の印象は、「ばっちり!」と太鼓判を押した。乗り心地はいまいちだったそうだが、完成して動いたことに感動したと答えてくれた。

製作者の声

この電車の製作は、およそ半年という長期間にわたる。製作中は、車体が線路から脱線しないように、線路、車輪に気を配ったそうだ。このような細かい作業の積み重ねが、すばらしい作品を作り上げたのだらう。

工業の七不思議?! アンケート結果



↑アンケート結果 単位:人 回答者数:397人

十二月十日(金)に新聞部はアンケートを全校生徒に行った。これは、生徒に本校のことをよく知ってもらおうと、武工の不思議を検証するという企画だ。工業で不思議に思ったことがあるかという問いについては、三学年総合して次のような結果になった(左のグラフ参照)。そのうち、「はい」

- 「トイレなぜドアがないのか?」
- 「音楽の教科がないのはなぜか?」
- 「体育館で音かするのはなぜか?」
- 「二階に職員室があるのはなぜか?」
- 「ブラバン部室の隣の部屋は何か?」
- 「先生たちの個性が豊かなのはなぜか?」

た。特に新聞部員の目を引いた意見については新聞部で調査を行い、紙面で結果を報告していく予定だ。調査を行う内容については、後日の報告を楽しみにして欲しい。



↑参加した宮本さん

今回、この電車の製作に参加した宮本聖羅さん(3-2)に話を聞いた。



製作中の様子 線路(右2枚) 車両本体(下)

↓西川知事も乗車



私が疑問に思ったことがある。それは、「なぜ私たちは勉強しなければならないのか。」という疑問だ。一般的に高校生は、将来のために勉強していると思う。しかし、私たちは別に知らなくてもよいものも勉強をする。私が言いたいのは今習っていることは自分自身が社会に出て役に立つのか、ということだ。そう思った私はいろいろと調べてみた。「ブログ・アビット」というサイトで「なるほど」と思える答えがいくつか見つげられた。

『勉強はしなきゃいけないものじゃない。したいと思うもの。これからあなたたちは知らないもの、理解できないもの。にたくさん出会う。その時そのことを知りたい、勉強したいと自然に思うから人間だ。勉強は受験のためにするのでない。立派な大人になるためにする。』
これは人気ドラマ「女王の教室」の阿久津先生の言葉だ。確かにそうなのかもしれない。私たちは今「考えるという力」を学校で身に付けてがんばっている。いろいろな教科があるからこそ様々な考え方を得ることが出来る。そう思えば勉強も大事だと思えてきた。みんなはどう思っただろうか。

住吉